

新入生のボランティア意識調査 —「2014年度ボランティア活動に関わるアンケート」から—

1. 調査の目的と概要

聖学院大学ボランティア活動支援センターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として、昨年度に続き二回目となる本アンケートを実施した。実施にあたり、昨年度の回収率の良さを活かし、新入生オリエンテーション時に調査用紙を配布した。

2014年度学部入学者519名のうち、471名から回答を得られた（回収率91%）。昨年度の回収率が88%だったのに対し、+3ポイントとなった。

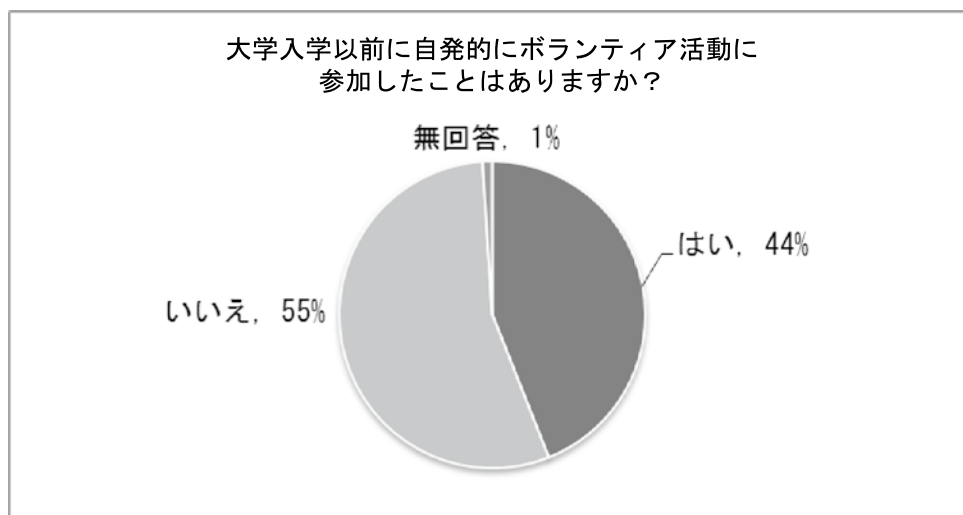
昨年度のデータと比較検討し、今後さらに魅力的な活動マッチングや新規プロジェクト立ち上げへの支援などに活かしていくため、このアンケート結果を活用した。

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前に自発的にボランティア活動に参加した経験があるか質問したところ（図1）、経験ありが209名（44%）で、経験なしの回答は261名（55%）、無回答は1名（1%として計算）だった。

図1. 大学入学以前の自発的なボランティア活動経験



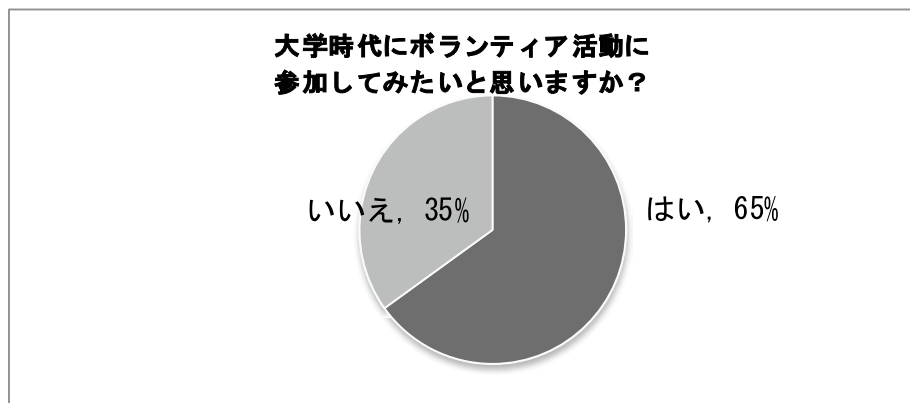
※昨年度との比較

	2013年度	2014年度	前年度比
入学前にボランティア活動経験あり	38%	44%	+6ポイント
入学前にボランティア活動経験なし	62%	55%	
無回答		1%	

(2)大学時代にボランティア活動に参加したいか

本年度、活動希望者は全体の65%（307名）となり、活動参加を希望しない者の35%（164名）を大きく上まわる結果となった（図2）。昨年度に比べ、活動を希望する者の割合が2%増えた。

図2. 大学時代にボランティア活動に参加してみたいと思うか



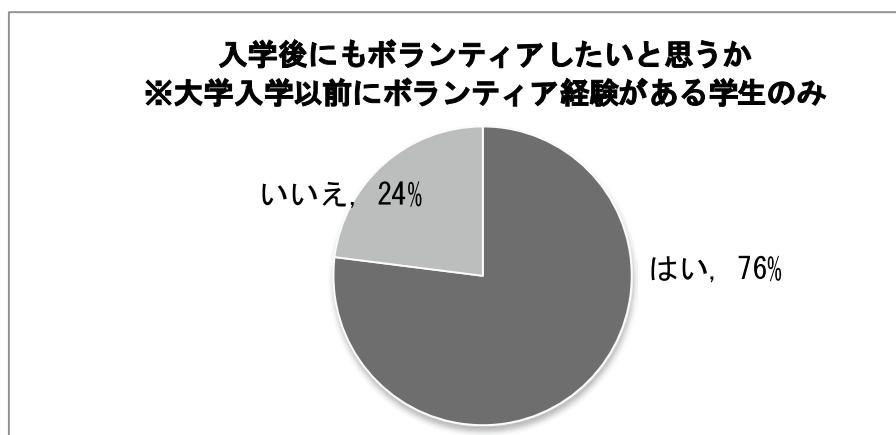
※昨年度との比較

	2013年度	2014年度	前年度比
大学時代ボランティア活動に参加したい	63%	65%	+2ポイント
大学時代ボランティア活動に参加したくない	37%	35%	

大学入学以前にボランティア経験があると答えた209名のうち、入学後もボランティア活動に参加したいと思うと答えた学生は76%（前年度比+5ポイント）の158名だった。

（図3）

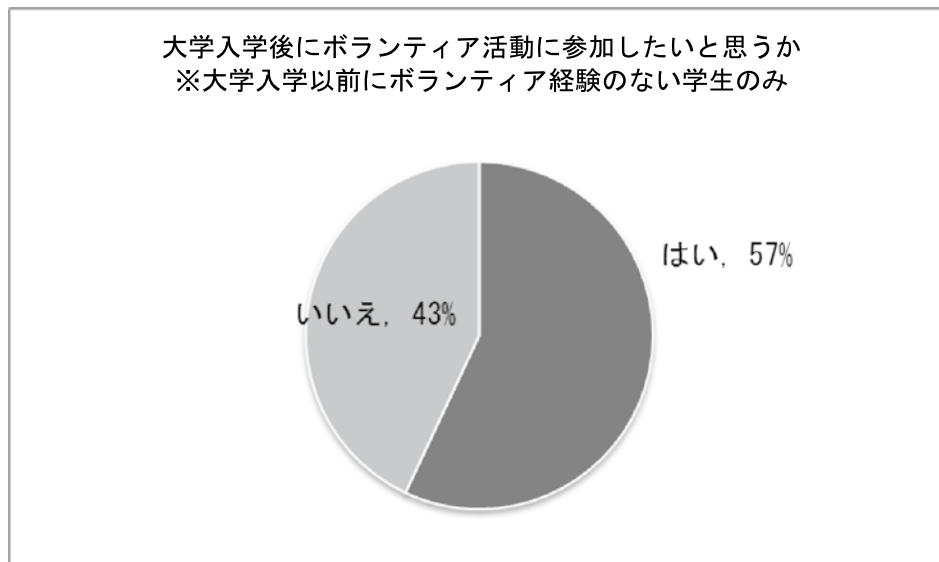
図3. 大学入学以前にボランティア経験がある学生の、入学後のボランティア意識



大学入学以前にボランティア経験がないと答えた261名のうち、入学後はボランティア活動に参加したいと答えた学生は57%の149名（前年度比-1ポイント）、したいと思わな

いと答えた学生は 43%の 112 名となった。(図 4)

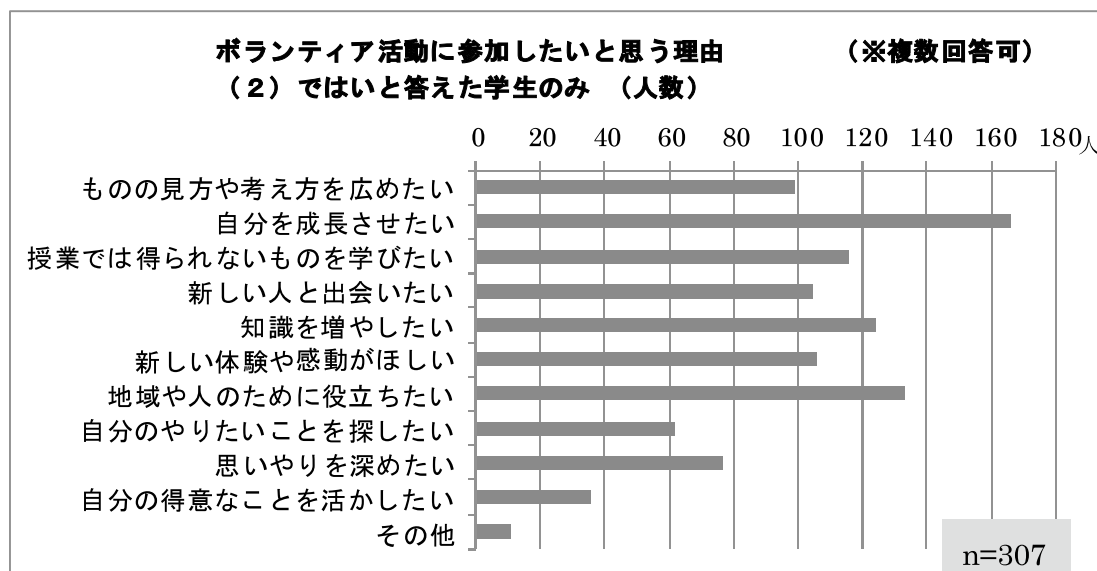
図4. 大学入学以前にボランティア経験のない学生の、入学後のボランティア意識



入学前にボランティア経験がない学生の約 6 割が、入学後に活動に参加したいと回答している。引き続き、こういった層の学生達の「初めの一步」を応援する企画や積極的な広報対策を心がけたい。

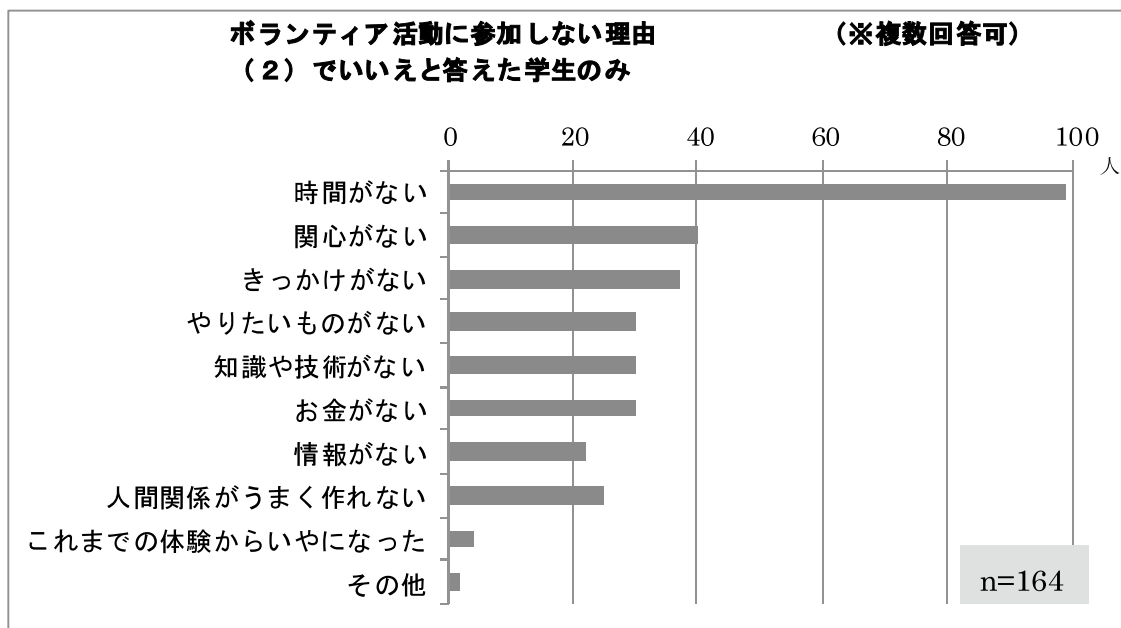
次に、ボランティア活動参加希望者(307名)を対象に、ボランティア活動に参加したい理由について複数回答で質問したところ(図5)、「自分を成長させたい166名(54%)」「地域や人のために役立ちたい133名(43%)」「知識を増やしたい124名(40%)」「授業では得られないものを学びたい117名(38%)」が高い割合を示していた。

図5. ボランティア活動に参加したいと思う理由((2)ではいと答えた学生のみ)



次に、ボランティア活動に参加を希望しない学生 164 名を対象に、参加を希望しない理由を質問したところ（図6）、昨年度と同じ割合で一番多かった回答は「時間がない 99 名（60%）」であった。次いで「関心がない 40 名（24%）」「きっかけがない 37 名（23%）」が上位を占めた。

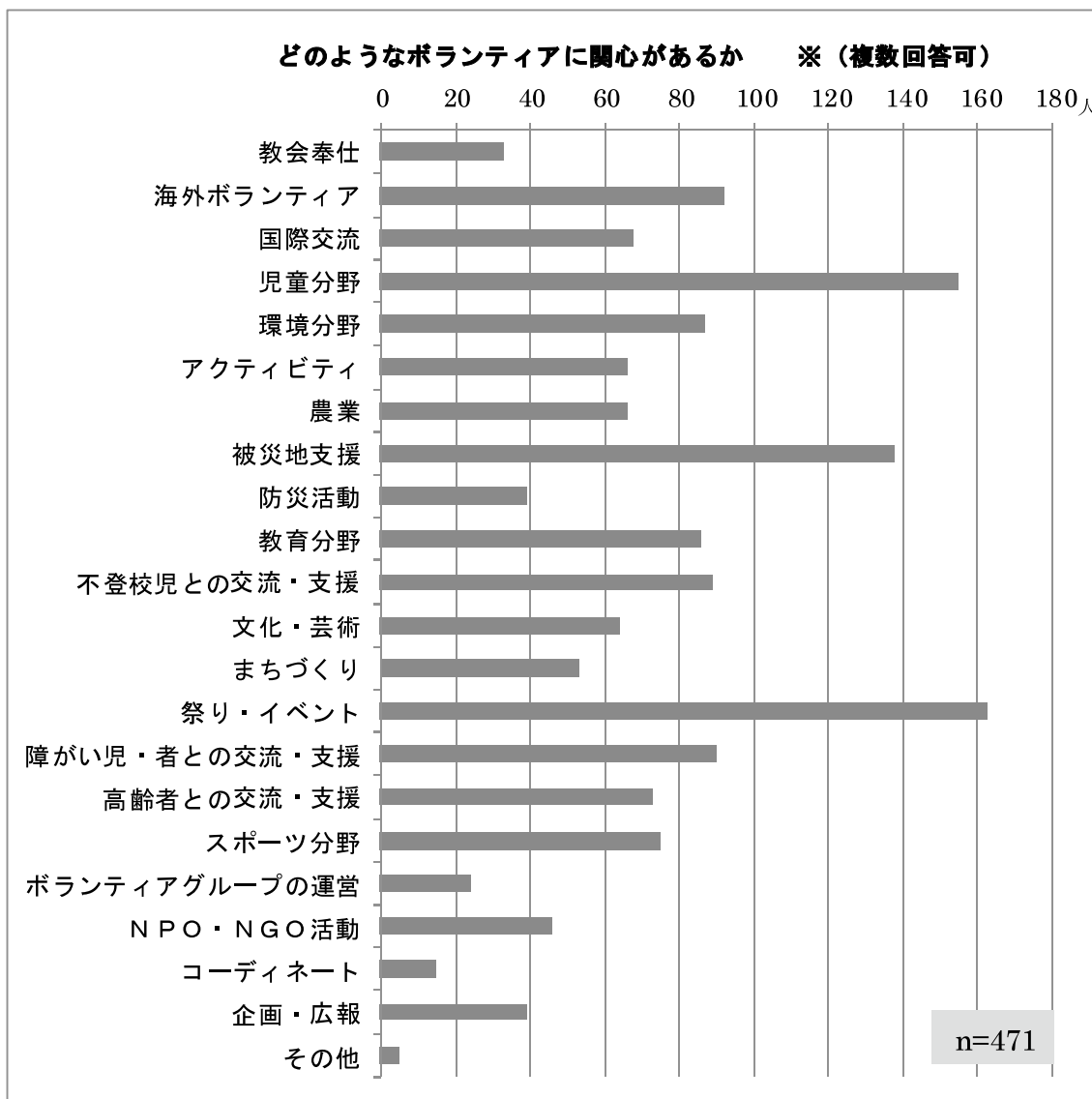
図 6. ボランティア活動に参加しない理由（(2)でいいえと答えた学生のみ）



(3)関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動の分野を複数回答で質問したところ（図7）、「祭り・イベント 163 人」「児童分野 155 人」「被災地支援 138 人」が上位を占めた。今年一番関心の高かった「祭り・イベント」分野を希望する学生の内訳としては、児童学科（47 人）に次いで日本文化学科（38 人）、人間福祉学科（23 人）、政治経済学科（19 人）、欧米文化学科（13 人）となっており、学科を問わず地域でのイベントでの活動に関心の高い学生がいることがわかった。近年、地域からの依頼も増加傾向にあるので、積極的に周知をしていきたい。

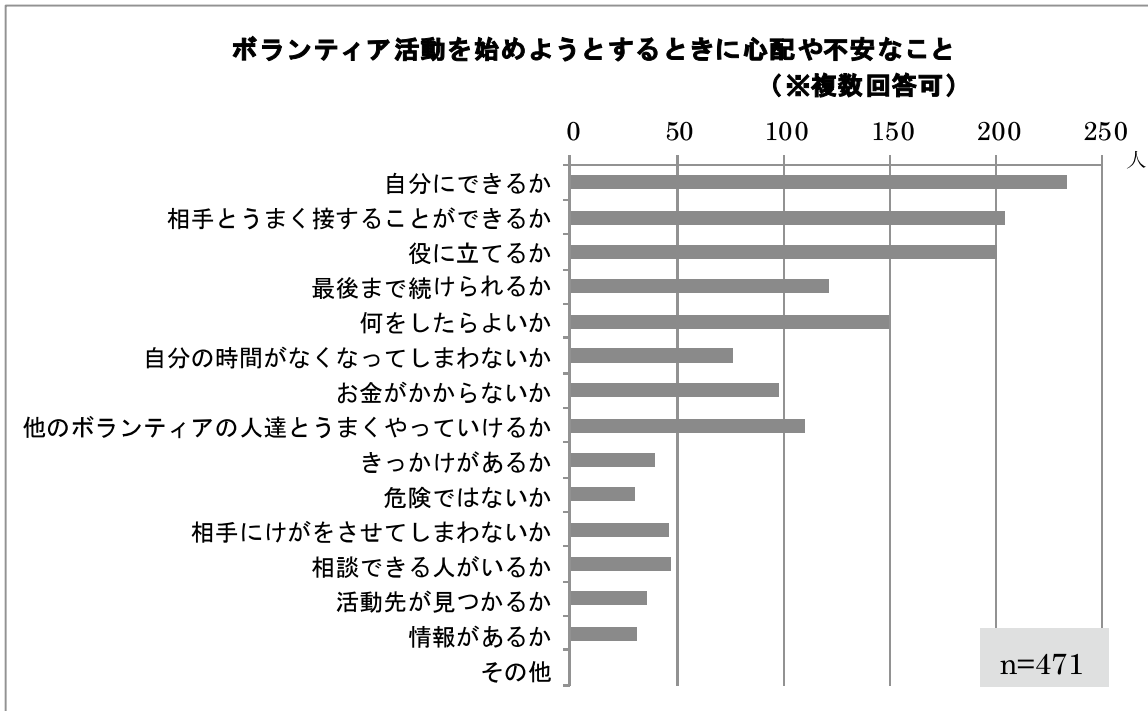
図7. どのようなボランティアに関心があるか



(4) ボランティア活動を始めるにあたっての心配や不安

こちらの問いも、複数回答にて質問したところ (図8)、「自分にできるか 234人」「相手とうまく接することができるか 205人」「役に立てるか 201人」の3項目が上位を占めた。昨年度は、「相手とうまく接することができるか」が最も多く、次いで「自分にできるか」が多かった。参加した学生の話聞く機会を設けるなどして不安を取り除くことができれば、それぞれ関心のある分野で活動が展開されるだろう。

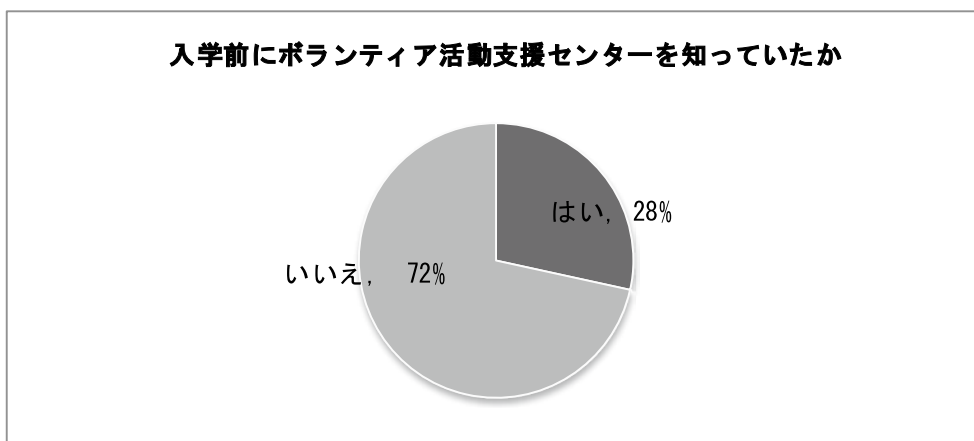
図8. ボランティア活動を始めようとするときに心配や不安なこと



(5) ボランティア活動支援センターの認知度

ボランティア活動支援センターの存在を入学時に認知していた新入生の割合は、昨年度21%だったのに対し、今年は28%の134名であった(図9)。オープンキャンパスでもブースを設け、センターの紹介や活躍している学生達の姿を直接見てもらえるよう工夫した成果が表れているのではないかと考えられる。次年度のアンケートでは、どこで情報を知ったか、例えばオープンキャンパスでボランティア活動支援センターのブースに来室したかなど、さらに細かく設問を設け問いかけてみたい。

図9. 入学前にボランティア活動支援センターを知っていたか



3. 考察

本調査は今回で 2 回目の実施となる。そのため、新入生の傾向をつかむだけでなく、前年度との比較も行うことができるようになった。

まず、新入生の中に占める「学生時代にボランティア活動をやってみたい」と考える学生が 65%と高い割合を占めていることがわかる。昨年度の比較しても 2 ポイントの増加となっている。この結果は、大学入学以前のボランティア経験の有無に関わらず同様の傾向となっている。

元々ボランティア活動に対して高い関心を示しているが、その傾向がさらに強まっていることがうかがえる。センターとして、これから関心を持っている学生に対して、着実に活動につながっていけるよう、仕組みづくりと丁寧なコーディネートが求められている。

活動への動機を見ると、前回同様「自分を成長させたい」と考える学生が最も多く次に「地域や人のために役立ちたい」との回答が続いた。「ものの見方や考え方を広めたい」については、一定の希望があるものの前年度と比較するとかなり低くなっている。ボランティアは社会や他者への貢献活動であるが、同時に活動を通じた自己の成長につながるという認識が一般的になっていることがうかがえる。

また活動の関心分野については、昨年度同様「祭り・イベント」「児童分野」「被災地支援」に対して関心を持つ学生が多い。これは、児童学科、こども心理学科、コミュニティ政策学科などそれぞれの学科の特色にもつながる傾向であることがうかがえる。センターとしても、学科の学びを意識しながら、学生への発信をしていきたい。

活動への心配や不安については、前回同様「自分にできるか」「相手とうまく接することができるか」「役に立てるか」について気になっている学生が多いことがうかがえる。これらの傾向を踏まえ、ボランティア活動の最初の一步は、できるだけハードルを下げよう発信していくこと、また活動にあたってのオリエンテーションの実施など、引き続き不安を取り除く丁寧な取り組みが求められている。

最後にボランティア活動支援センターの認知度については、28%と前年度から 7 ポイントの増加となっている。これは、センターとしてオープンキャンパスに出展していることや、大学のパンフレットへの掲載が影響しているものと考えられる。ボランティア活動が盛んであることや支援体制が整っていることが、聖学院大学の特色の一つとして認識されつつあることがうかがえる。すでに「ボランティアを頑張りたいので聖学院大学に来た」という学生も若干名ながら存在しており、今後さらにこのような学生が増えるようにできる限り発信をしていきたい。